

2023年12月11日
TOPPANホールディングス株式会社

TOPPANホールディングス、「DJSI World」2023 構成銘柄に選定
人権、人的資本開発など多様な社会課題への対応が高く評価され
世界有数の ESG 投資インデックスに選定

TOPPANホールディングス株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下TOPPANホールディングス)は、世界の代表的な ESG 投資インデックスである「Dow Jones Sustainability World Index」(以下、DJSI World)の2023年構成銘柄に選定されました。



Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

DJSI World は、S&P Global 社が提供する、世界的にも歴史があり、知名度・専門家からの信頼性が高い ESG 投資インデックスです。全世界 13,500 社を超える上場企業を対象として厳密なルールで行われる CSA(コーポレート・サステナビリティ・アセスメント)に基づき、環境・社会・ガバナンス(E・S・G)の3つの側面から企業を評価し、サステナビリティ(持続可能性)に優れた企業を構成銘柄として選定しています。

2023年のDJSI Worldでは、全世界で321社、日本企業は38社が構成銘柄に選定されました。TOPPANホールディングスの選定は、2年ぶり6度目。またTOPPANホールディングスが所属するセクター「Commercial & Professional Services(商業サービス・用品)」において、日本企業で唯一の選定となりました。

個別項目の評価としては、環境項目全般での高い評価に加えて、特に「人権」「人的資本開発」「顧客関係管理」など社会項目で高いスコアを獲得しており、社会課題への対応が高く評価されています。また「情報セキュリティ」項目は、セクター内トップスコアを獲得しています。

■ TOPPANグループのサステナビリティへの取り組み

TOPPANグループは創業以来、「人間尊重」「企業は人なり」の基本的な考え方のもと事業活動を推進し、お客さまに高品質な製品・サービスを提供することを通じて社会に貢献してきました。

2006年には、国連「グローバル・コンパクト」に賛同。人権、労働、環境、腐敗防止の4分野10原則を支持し、これに基づいた活動を推進しています。さらに2011年は、サステナビリティ全体における指針をより明確化するため「ISO26000」を採用。2019年よりグローバルな社会課題に積極的に対応するため「TOPPAN SDGs STATEMENT」を策定し、SDGs 貢献を見据え、事業活動・全社活動でのマテリアリティ(重要課題)を定義。2020年の「TOPPAN Business Action for SDGs」において事業活動マテリアリティにおける注力分野を設定、2021年にはその具体的な目標値設定と取り組みを具体化し、事業を通じた社会課題解決に向けた取り組みを加速しています。

2023年10月には、ホールディングス体制に移行。TOPPANグループ各企業が持つ強みや特長を掛け合わせ、グループシナジーを発揮して価値創造を目指すとともに、社会課題解決に向けてより一体感

をもって取り組んでいます。

TOPPAN グループは今後も、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進し、透明性の高い情報開示を継続して行っていくとともに、「DX(Digital Transformation)」と「SX(Sustainable Transformation)」によってワールドワイドで社会課題を解決するリーディングカンパニーとして、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指していきます。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上